

令和7年4月30日

富士市議会
議長 笠井 浩 様

議会改革検討委員会
委員長 佐野 智昭

事業評価についての検討結果の報告

議会改革検討委員会では、4月10日、4月25日に委員会を開催し、事業評価について検討しましたので、その結果をご報告いたします。

1 議会事業評価対象事業の選定方法について

継続審議となっておりました議会事業評価対象事業の選定方法につきましては、会派代表者会議でのご意見などを踏まえ、「別紙1 議会事業評価対象事業の選定方法（案）」のとおり提案いたします。

2 事業評価シートの様式について

事業評価シートにつきましては、昨年度の委員会では、引き続き現行シートを使用することとなっておりました。

しかし、今後の方向性の評価につきましては、「別紙1 議会事業評価対象事業の選定方法（案）」を踏まえ、事業内容と予算を分けて評価するよう改善する必要があるとの意見が出され、「別紙2 事業評価シート（案）」のとおり提案いたします。

3 事業評価についての今後の検討について

今年度、新たな方法で対象事業を選定し、事業評価を実施することになります。また、新たな事業評価シート（案）も提案させていただきましたので、今年度の事業評価後、状況を見て、不都合があれば再度検討する必要があると考えます。

議会事業評価対象事業の選定方法（案）

1 選定する事業数

選定する事業数は、各分科会で0～2事業とする。

なお、該当事業がない場合は、選定事業なしでもよい。

2 選定する事業

選定する事業は、①～④のいずれかに該当する可能性があるものとする。

- ① 役割を終えた事業（廃止を求める事業を想定）
- ② これ以上効果が期待できない事業（予算を削減する事業を想定）
- ③ 大幅に内容を見直すべき事業（予算を有効に活用すべき事業を想定）
- ④ さらに効果が期待できる事業（予算を増加する事業を想定）

なお、選定した後に、当局から詳しい説明を受け、選定時の想定と異なっていた場合であっても、事業評価は実施するものとする。

3 事業の単位

小事業単位を基本とするが、小事業の中の特定のサービスや補助金等、細かい内容を指定して評価対象としてもよいものとする。

どの部分を選定対象とするかは、選定理由の中に明確に記載する。

令和6年度 一般・特別会計決算 富士市議会事業評価シート(会派用)【案】

評価対象事業		会派名	

1 実績評価

(1) 項目別評価 (※ 評価コメント覧には各視点から考察した理由を必ず記載すること)

視 点		評価基準(該当右欄に○)		評価コメント
必要性	市民ニーズ (事業として意義があるか)	①ニーズが高い		
		②どちらかといえばニーズが高い		
		③どちらかといえばニーズが低い		
		④ニーズが低い		
		⑤ニーズがない		
	実施主体・手法 (市が行うべき事業か、 手法は適格か)	①市が実施すべき、手法は適格である		
		②どちらかといえば市が実施すべき、 手法を一部見直す必要がある		
		③必ずしも市が実施しなくてもよい、 手法を大幅に見直すべき		
		④市が実施しなくてもよい、 他の手法を検討すべき		
有効性	成果 (求められた成果が 上がっているか)	①きわめて成果がある		
		②成果がある		
		③どちらかといえば成果がある		
		④どちらかといえば成果がない		
		⑤成果が少ない		
		⑥成果がない		
	費用対効果 (成果に対して費用は 適当であったか)	①きわめて効果的である		
		②効果的である		
		③どちらかといえば効果的である		
		④どちらかといえば効果的でない		
		⑤効果が少ない		
		⑥効果がない		

(2) 総合評価 (※ 評価対象事業を選定した理由に沿った事柄を必ず記載すること)

評価区分		評価に至った理由
A	十分評価できる	
B	やや評価できる	
C	あまり評価できない	
D	全く評価できない	

2 今後の方向性

方向性区分		今後の取り組み方及び翌年度予算への提言	
事業内容			
イ	継続する		
ロ	改善し継続する		
ハ	大幅に見直す		
ニ	廃止する		
予 算			
1	増加する	達成までの期間	
2	維持する	・翌年度	・3年以内
3	削減する	・5年以内	・10年以内
		・設定の必要なし	
		・その他()	

令和6年度 企業会計決算 富士市議会事業評価シート(会派用)【案】

評価対象事業		会派名	

1 実績評価

(1) 項目別評価 (※ 評価コメント覧には各視点から考察した理由を必ず記載すること)

視 点		評価基準(該当右欄に○)		評価コメント
適切性	重要度 (事業全体にとって 不可欠なものか)	①きわめて重要である		
		②重要である		
		③どちらかといえば重要である		
		④どちらかといえば重要でない		
		⑤重要でない		
	手法 (事業手法は課題解 決に資するものか)	①適格である		
		②一部見直す必要がある		
		③大幅に見直しすべき		
		④他の手法を検討すべき		
有効性	成果 (求められた成果が 上がっているか)	①きわめて成果がある		
		②成果がある		
		③どちらかといえば成果がある		
		④どちらかといえば成果がない		
		⑤成果が少ない		
		⑥成果がない		
	費用対効果 (成果に対して費用は 適当であったか)	①きわめて効果的である		
		②効果的である		
		③どちらかといえば効果的である		
		④どちらかといえば効果的でない		
		⑤効果が少ない		
		⑥効果がない		

(2) 総合評価 (※ 評価対象事業を選定した理由に沿った事柄を必ず記載すること)

評価区分			評価に至った理由
A	十分評価できる		
B	やや評価できる		
C	あまり評価できない		
D	全く評価できない		

2 今後の方向性

方向性区分			今後の取り組み方及び翌年度予算への提言						
事業内容									
イ	継続する								
ロ	改善し継続する								
ハ	大幅に見直す								
ニ	廃止する								
予 算									
1	増加する				達成までの期間				
2	維持する				・翌年度	・3年以内	・5年以内	・10年以内	・設定の必要なし
3	削減する				・その他()				